

2024 年度韓国・釜山研修旅行の内容とその効果

Contents and Achievements of the 2024 Study Tour to Busan, Korea

鄭 玉姫

要 約

本稿は、2024 年 9 月 1 日から 5 日にかけて韓国・釜山市で行われた海外研修旅行の報告である。この研修は、浜松学院大学地域共創学科観光専攻の学生を対象としたもので、主な目的は観光地での現地調査を通じて異文化交流や観光地の仕組みを学び、グローバルな視点を養うことにあった。特に、釜山東義大学を訪問し学生間の国際交流を促進したほか、甘川文化村での観光調査を通じて観光資源活用の成功事例を学ぶことに重点を置いた。

研修を通じて、参加学生は観光調査を実施し、データ収集のスキルを向上させるとともに、観光地と地域住民の共存に対する理解を深めた。また、現地大学訪問により観光学の理論と実践の結びつきについて学び、韓国学生との交流を通じて異文化理解の視野を深めるとともに、今後の学びへの意欲が一層高まった。

キーワード：海外研修、観光調査、国際交流、韓国・釜山市

1. はじめに

本稿は、2024 年 9 月 1 日から 9 月 5 日にかけて韓国・釜山市で実施された浜松学院大学地域共創学科観光専攻の海外研修旅行の報告である。本研修の目的は、異文化交流や観光地の仕組みを学び、グローバルな視点を養うことである。また、観光資源を活用した地域再生の実例を現地調査で理解することも重要な目的の一つであった。

観光専攻では、観光現象や観光メディア、地域観光、観光と経済などの分野を学び、観光関連資格の取得を目指した実践的な授業を提供している。また、フィールドワークを通じて五感を活用した実体験に基づくデータ収集を行い、新たな視点を育む学びを重視している。

今回の海外研修は、国内で行ってきたフィールドワークを海外に拡張する試みとして計画された。研修地として釜山市が選ばれた理由は、引率教員の出身地であり、また観光資

源や地域再生の実例が豊富であるため、研修の成果を最大限に引き出すことができると考えられたからである。

現地の大学訪問については、以前から交流のある釜山東義大学ホテル・コンベンション経営学科の劉享淑教授に協力を依頼し、承諾を得た。韓国における観光学習の現場を、大学施設見学や学生同士の交流を通じて確認する機会とした。

研修準備は 4 月に始まり、観光専攻の 3 年生向けのプレゼンテーションや 4 年生への資料配布を通じて参加者を募った。航空券の予約時期を考慮し、申込期限は 4 月末とし、最小催行人数を 2 人以上と決めた。最終的に、3 年生 2 人と 4 年生 1 人の計 3 人が参加し、研修を実施することとなった。

本報告書は、海外研修（巡検）報告（坂本ほか、2017）を参考にしており、今後の海外フィールドワークの準備や進行に資するものとして、参考資料となることを期待している。



図 1 研修の訪問地
(Google map に加筆作成)

2. 研修の準備と振り返り

2-1. 事前授業

研修行程は表 1 に示す通り、前半に大学訪問と甘川文化村での調査を行い、後半は釜山市内観光と自由見学を組み合わせた。移動手段としては、バスや地下鉄、タクシーを利用し、市内を広範囲に移動した(図 1)。

研修に先立ち、事前学習は前期中に 4 回実施した。最初の 2 回は昼休みを利用し、研修の意義、スケジュール、航空券手配、現地費用について教員が説明した。航空券や宿泊手配、大学訪問の調整は旅行会社を使わず、引率教員が直接対応した。また、パスポート取得が必要な学生の手続きを確認した。

残りの 2 回は、8 月 19 日と 20 日に各 2 時間ずつ実施し、釜山市の地域理解を深めることができた。特に、観光調査の対象地である甘川文化村における「住民参加による観光まちづくり」を学び、現地の観光資源に対する理解が深まった。調査はアンケート形式で行い、韓国語、日本語、英語を使用できるよう準備した。また、研修行程ごとに記録担当者を決め、研修内容の文書化体制を整えた。全員が海外旅行保険に加入し、渡航準備を完了させたことで、参加学生の研修への期待が一層高まった。

2-2. 事後授業

事後授業は 9 月 27 日(金)の午後 2 時 40 分から 4 時 10 分まで行われた。授業ではアンケート結果の集計と調査日誌の提出について話し合い、学生は 9 月 30 日までに調査日誌を指定の Teams で提出するよう指導を受けた。授業中には、現地体験の共有とアンケートに基づく考察を行い、研修内容を振り返った。

さらに、11 月 27 日(水)に学科内で実施された「ゼミ活動報告会」で研修内容をまと

表 1 研修行程

日付	行き先	活動内容
9 月 1 日(日)	日本→釜山	移動
9 月 2 日(月)	釜山東義大学 甘川文化村	国際交流 町並み見学
9 月 3 日(火)	甘川文化村	観光調査
9 月 4 日(水)	海雲台地区 自由見学	町並み見学
9 月 5 日(木)	釜山→日本	移動

めて発表した。発表後には会場から多くの質問が寄せられ、有益な議論が行われた。事前・事後授業を通じて、研修の効果を体系的に高めることができた。

3. 研修の実施内容

3-1. 研修 1 日目：日本出発・釜山到着

2024 年 9 月 1 日（日）、研修の 1 日目は中部国際空港で集合し、午後便で韓国の釜山金海国際空港に到着した。8 月末に台風が接近していたため、移動に不安があり、一部の学生と教員は空港近くのホテルに前泊した。

釜山到着後、空港から無人電車の軽電鉄と地下鉄を乗り継いで、宿泊先の「東横 INN 釜山西面」へ向かった。西面エリアは市内移動の拠点として便利であり、研修を円滑に進めるために選ばれた場所であった。

チェックイン後、学生と教員は釜山の郷土料理「豚骨クッパ」を楽しんだ。学生たちは現地の食文化体験に、期待と緊張を感じながら食事を楽しみ、少しずつ釜山での滞在に慣れ始めた。

3-2. 研修 2 日目：釜山東義大学訪問・甘川文化村見学

2 日目の 9 月 2 日（月）は、午前中に釜山東義大学を訪問し、午後には甘川文化村を見学した。学生たちは現地の大学訪問を通じて、韓国の観光産業や観光資源の活用について学び、異文化理解を深めることを目的とした。

（1）釜山東義大学訪問

朝食後、9 時 30 分にホテルロビーに集合し、タクシーで釜山東義大学に向かった。同大学では、劉享淑教授と学生 2 人に迎えられ、大学の概要説明を受けた後、講義室、調理室、カジノ実習室、バリスタ実習室、図書館、博物館（大学資料館）などを見学した（写真 1）。また、実際にカジノ実習体験や試飲も行い、日本の大学では見られない実践重視の教育環境に触れた学生たちは、興味を示し、積極的



写真 1 釜山東義大学訪問の様子
現地学生からカジノ説明を受ける学生たち。
（2024 年 9 月 2 日鄭撮影）

に質問を行った。

見学後は校内食堂で韓国の学生と昼食を共にし、食文化の違いについて話し合った。特に、茶碗を手に持たずに食べる習慣などについて交流し、ジェスチャーや翻訳アプリを活用しながら積極的に会話を楽しむ姿が見られ、良い異文化交流となった。

（2）甘川文化村見学

午後、釜山東義大学を後にし、タクシーと地下鉄を利用して甘川文化村へ移動した。到着後、観光案内センターで「観光マップ」¹⁾を購入し、歴史文化解説士から観光まちづくりの内容について説明を受けた。

甘川文化村は、丘陵地帯に広がるカラフルな建物と多様なアート作品で知られ、地域再生の成功例として高く評価されている（写真 2）。その一例として、2009 年に韓国文化体育部の都市再生事業の一環として始まったプロジェクトが挙げられる（鄭、2015）。この事業では、アート作品を活用したまちづくりが進められ、集落内にはオブジェが至る所に設置され、空き家がギャラリーとして再利用されている。訪問者は集落を散策しながらこれらのアート作品を楽しむことができる。

学生たちは、観光地と住民の生活空間が共存する現状に触れ、観光と地域生活のバランスの重要性を改めて感じ取ることができた。



写真 2 甘川文化村の景観

丘陵地帯に広がるカラフルな建物が特徴的な甘川文化村。
(2024 年 9 月 2 日 鄭撮影)

3-3. 研修 3 日目：観光調査

(1) 甘川文化村での観光調査

9 月 3 日（火）、学生たちは甘川文化村で観光調査を実施した。調査の目的は、観光客の行動パターン、観光地の現状、観光マナーに対する認識を把握することにあった。アンケートは、回答者の基本情報（年齢、居住地、同行者）、訪問目的、滞在時間、情報源、観光マナーに関する理解を尋ねる内容で構成された。特に観光マナーに関する設問では、住民のプライバシーや騒音問題に対する観光客の認識を調査した。アンケート調査は、観光客が集まりやすい場所で直接回答を得る形で実施された。

学生たちは 9 時 30 分にホテルを出発し、11 時に甘川文化村の観光案内センター前で釜山東義大学の学生 2 人と合流した。挨拶と調査内容の確認後、参加者は日本人学生と韓国人学生を混ぜた 2 つのグループに分かれて調査を開始した（写真 3）。

最初は緊張していた学生たちも、次第に慣れ、観光客とのコミュニケーションを楽しむ様子が見られた。質問が難しい場合には簡単な英語のフレーズを使ったり、アンケート票を見せて協力をお願いしたりするなどの工夫を行っていた。教員は各グループを巡回し、調査が円滑に進むようサポートした。



写真 3 甘川文化村での観光調査の様子

2 つのグループに分かれ、各スポットで観光客にアンケート調査を行う学生たち。
(2024 年 9 月 3 日 鄭撮影)

午後 3 時に全員が観光案内センターで再集合し、その後ホテルに戻って調査結果をまとめた。グループごとに結果を発表し、情報を共有した。夕方には、釜山東義大学の劉享淑教授も参加する夕食会が開かれ、焼肉を囲みながら研修の学びを振り返り、親睦を深めた。

この日の活動を通じて、学生たちは外国での調査の難しさや楽しさを実感し、フィールドワークの重要性と異文化コミュニケーションの意義を深く理解する貴重な機会を得た。

(2) 観光調査結果

観光客 38 組（計 93 人）から得た調査結果を以下の通りである。

1) 回答者の基本情報

回答者の多くは友人同士（17 組）や家族連れ（19 組）で、単独訪問者は少数だった。年齢層では、特に 20 代（22 人）が多く、その中でも大学生・院生（15 人）が目立った。

国籍別では、日本人（21 組）が最多で、次いで台湾（3 組）、シンガポール（2 組）、

表 2 回答者の概要

区分	内 容	38 組 (93 人)
同行者の 関係	家族	19 組
	友人	17
	カップル	2
回答者の 年代	10 代	2 人
	20 代	22
	30 代	3
	40 代	3
	50 代以上	8
回答者の 職業	中高生	1 人
	大学生・院生	15
	会社員	10
	自営業	4
	その他	8
国籍	日本	21 組
	台湾	3
	シンガポール	2
	スペイン	2
	ドイツ	2
	モロッコ	2
	その他※	6

注) その他：韓国、アメリカ、オーストラリア、
スイス、ハンガリー、フランス

(2024 年 9 月 3 日のアンケート調査より作成)

欧州諸国からの訪問者も確認された(表 2)。調査日が平日で夏休み終了後だったため、韓国人観光客は少なかったが、甘川文化村は韓流(K-POP)の影響を受け、世界各地から訪れる観光客が多いことが分かった。

2) 訪問目的と訪問回数

訪問目的で最も多かったのは「写真撮影」(25 組)で、次いで「アート鑑賞」(21 組)、そして「旅行のついでに訪問」(12 組)という結果となった(図 2)。SNS 映えする景観や「星の王子さま」のオブジェが特に人気で、観光客はシンボリックな場所での写真撮影を楽しんでいた(写真 4)。

訪問回数については、初めて訪れた観光客(35 組)が大半を占め、リピーターは少数派(3 組)であった。甘川文化村は主要観光地への中継地点としても機能しており、「一度訪れると満足する」観光地として多くの訪問者から評価されていることが分かった。

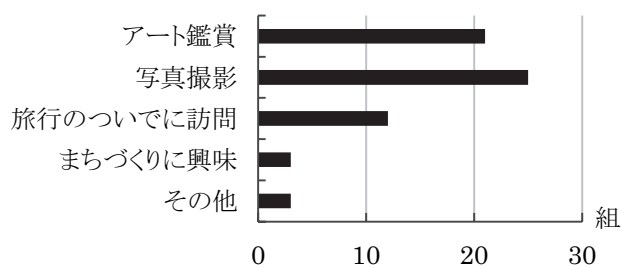


図 2 甘川文化村における訪問目的 (n=38)

複数回答可とした。

(2024 年 9 月 3 日のアンケート調査より作成)

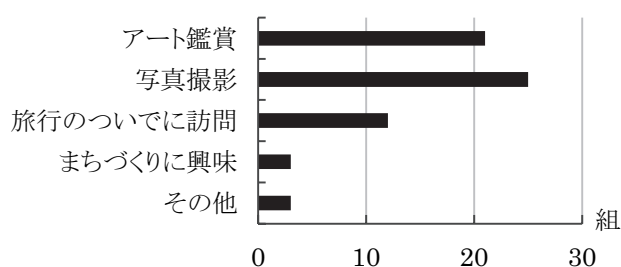


図 3 甘川文化村の情報源 (n=38)

複数回答可とした。

(2024 年 9 月 3 日のアンケート調査より作成)



写真 4 観光客の活動様子

人気の「星からの王子さま」(写真右)のオブジェ前で、写真撮影のため列を作る観光客たち。

(2024 年 9 月 3 日 鄭撮影)

3) 甘川文化村に対する情報源

甘川文化村についての主な情報源は、SNS（19組）、ネット検索（13組）、YouTube（4組）であった（図3）。次いで、親族や友人からの口コミ（8組）、ガイドブック（4組）が挙げられる。SNSが訪問動機に大きく影響を与えていることが明らかになった。

4) 観光マナーに対する認識

観光エリアと住民の生活エリアが接近する甘川文化村では、プライバシー保護や騒音防止が重要な課題となっている（鄭、2015）。現地では、訪問時間の制限²⁾や、住民の家屋と観光施設を区別する「観光マップ」の販売など、さまざまな対策が講じられている。

観光マナーに関する注意喚起³⁾を知っているかという質問には、「知っている」と回答したのは17人、「知らない」が21人であった（表3）。これにより、多くの観光客が甘川文化村の特徴を十分に理解せずに訪れていることが分かった。一方、注意喚起が適切かどうかを尋ねた質問には、36人が「はい」と答え、その理由として「そこに住んでいる人がいるから」と回答した。この結果、観光マナーの重要性について一定の理解が得られていることが分かる。

この調査から、甘川文化村が「SNS映えする観光地」として人気を集める一方で、住民の生活空間との共存が課題であることが確認された。持続可能な観光を実現するためには、観光マナーを目的としたポスター掲示やSNSを活用したマナー啓発動画の配信などを通じて、周知活動の一層の強化が求められる。

表3 観光マナーに対する認識

区分	回答数 (38件)	マナー喚起は適切か	
		はい	いいえ
マナー認知			
知っている	17	16	1
知らない	21	20	1

（2024年9月3日のアンケート調査より作成）

3-4. 研修4日目：海雲台地区見学と自由見学

9月4日（水）、研修4日目は釜山の代表的な観光地である海雲台地区を訪れ、午後は自由見学とした。この日の目的は、都市観光地としての海雲台地区の魅力や観光開発の現状を体験し、韓国の都市文化への理解を深めることであった。

午前中、学生たちはホテルからタクシーで海雲台地区に向かい、途中で釜山市の象徴的な広安大橋（ダイヤモンド・ブリッジ）を通過した。晴天に恵まれ、美しい海岸線と橋の景観を楽しみながら、地域の魅力を実感した。

到着後、ブルーラインパークの「スカイカプセル」に乗車し、海岸線沿いの景色を満喫した。車窓からは海雲台海水浴場と高層ビル群が一望でき、リゾート地としての開発状況を理解することができた（写真5）。昼食には釜山名物のタラのスープを味わい、地元の食文化を体験した。



写真5 海雲台地区の景観

青沙浦駅から「スカイカプセル」に乗車中、海雲台海水浴場や107階建ての高層ビル（写真右）、広安大橋（写真左）を望む景色。

（2024年9月4日鄭撮影）

午後の自由行動では、学生たちは各自の興味に基づき、カフェや雑貨店を訪れて韓国らしい土産物を購入した。帰路でもダイヤモンド・ブリッジを通過し、美しい景色を楽しみながらホテルに戻った。

この日を通じて、学生たちは釜山市の観光

資源や都市文化についての理解を深め、自由行動を通じて個別の興味に基づいた観光体験を行った。これにより、釜山市の魅力をより多面的に学ぶことができた。

3-5. 研修 5 日目：帰国

9 月 5 日（木）、研修最終日。学生たちは午前中にホテルをチェックアウトし、タクシー 2 台に分乗して金海国際空港へ向かった。

空港では搭乗手続きと出国審査を終え、出発までの時間を免税店で過ごすなど、韓国での最後の瞬間を楽しんだ。午後 2 時半ごろに中部国際空港に到着し、入国審査と手荷物の受け取りを終えた後、全員が解散となった。

4. おわりに

本稿では、2024 年 9 月 1 日から 9 月 5 日まで実施された韓国・釜山市での研修旅行について報告した。本研修では、観光資源を活用した地域再生の成功事例を学び、観光と地域住民の共存に関する課題、特に観光マナーの啓発について理解を深める貴重な機会となった。甘川文化村での観光調査や釜山東義大学の学生との交流を通じて、異文化理解を深め、観光地の実態についての視野を広げることができた。

参加学生の多くは韓国文化や K-POP に関心を持ち、簡単な韓国語を話せる学生もいたため、引率教員にとっては指導しやすい環境であった。一方で、現地大学生との交流や観光調査に不安を感じる場面も見られたが、研修が進むにつれて学生たちは積極的にコミュニケーションを取り、交流を楽しむ工夫を見つけていった。この姿勢は、引率教員にも強い印象を与え、学生たちの国際交流における成長を実感することができた。

これらの経験を通じて、学生たちは観光分野における知識と理解を深め、自己啓発や社会的視野を広げるとともに、キャリア形成に対する意欲を高めることが期待される。

謝 辞

今回の海外研修を実施するにあたり、多くの方々にご支援を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。特に、釜山東義大学の劉享淑教授ならびに学生の皆様には、大学訪問から学生間の交流に至るまで、温かいご協力をいただき、深く感謝しております。

注

1) 観光案内センターでは、2,000 ウォン（220 円）で販売されている。特に団体客には購入が義務づけられており、その収益は集落の運営資金として活用されている。私たちも全員購入し、町並み見学にはマップを利用した。

2) 訪問可能時間は、3 月から 10 月までが 9:00～18:00、11 月から 2 月までが 9:00～17:00 に設定されており、住民のプライバシーを守るための工夫が施されている。

<https://gamcheon.or.kr/?param=index#>

（最終閲覧日：2024.12.20）

3) 公式ホームページによると、訪問エチケットとして、以下の点が挙げられる。

- ・実際、住民の住居空間である。静かに、きれいに、秩序を守って行動すること。
- ・大衆交通機関を利用すること（駐車場混雑）。
- ・住民のプライバシーを侵害する恐れのある写真や動画の撮影は控えるべきである。

<https://gamcheon.or.kr/?param=index#>

（最終閲覧日：2024.12.20）

引用／参考文献

坂本優紀・猪股泰広・岡田浩平・松村健太郎・呉羽正昭・堤純（2017）：オーストリア・チロル州における海外巡検の実施とその教育効果、地理空間、10-2、pp.97-110
鄭玉姫（2015）：韓国・釜山市甘川における文化村の展開と観光、立教大学観光学部紀要、第 17 号、pp.52-61